

島田三郎 ジャーナリスト、政治家。雄弁家で政界に独立独歩の地位築き、足尾鉾毒事件・廃娼運動などに尽力した。

しまださぶろう

万次郎帰国・1852 = 江戸で幕府の御家人の三男に生まれる。

ペリー来航・1853 = 1歳：

桜田門外変・1860 = 8歳：

遣欧使節・1861 = 9歳：

{昌平黌}を経て、

明治維新・1868 = 16歳：

戊辰戦争終・1869 = 17歳：静岡藩の沼津兵学校で初めて英書を学び、

初の日刊新聞1870 = 18歳：

廃藩置県・1871 = 19歳：上京して、大学南校応用化学科、ついで大蔵省付属英学校に学ぶ。洋行を志しその資金を得るため、**{横浜毎日新聞}**の翻訳記者となり、またアメリカ人宣教師に英語を学ぶ。

明治6年政変 1873 = 21歳：

佐賀の乱・1874 = 22歳：{横浜毎日新聞社員}総代島田豊寛の養子になると、官途を目指して、

初の民間工場1875 = 23歳：元老院に少書記官として出仕、沼間守一と親交を結び、

西南戦争・1877 = 25歳：

沼間の主催した"義勇兵募集演説会"で、壇上に上がるも上気して何も話せず、

以後、沼間の指導を得て精進する。

琉球処分・1879 = 27歳：沼間が官職を辞して{横浜毎日新聞社}の経営を引き受けることになる。

.....1880 = 28歳：

文部省に転じて大書記官に昇進して羽振りをかきせるが、

明治14年政変1881 = 29歳：

大隈派として追放され、沼間に迎えられて{横浜毎日新聞}の主筆となった。以後、記者を務めながら、

新体詩抄・1882 = 30歳：

民権結社(嚶鳴社)幹部として立憲改進黨結成に参加。神奈川県会議員となり、県会議長を務める。

帝国大学始・1886 = 34歳：植村正久より受洗。

初の対等条約1888 = 36歳：「開国始末」を刊行して井伊直弼のために弁明後、米欧視察に旅立ち、

帝国憲法発布1889 = 37歳：

帝国議会始・1890 = 38歳：キリスト教との関係を深めて、帰国。***沼間が死去。第一回総選挙で衆議院議員に当選、労働運動に理解を示すとともに、足尾鉾毒事件を支援、**

郡司千島探検1893 = 41歳：

衆議院副議長となる。

日清戦争始・1894 = 42歳：

肥塚竜が日清戦争に従軍した後を受けて、{横浜毎日新聞}社長となる。

以後、キリスト教として

白馬会.....1896 = 44歳：

進歩党の結成に参加するも、松隈内閣との連携には反対、

八幡製鉄始・1897 = 45歳：

子規句歌革新1898 = 46歳：

憲政党の結成、ついで憲政本党の創立に参加したが、脱退して無所属となるなど、転変するものの、ブルジョア民主主義者として一貫して没年まで議席を確保する。ユニテリアン系社会主義者と協調して足尾鉾毒問題演説会に参加、労働組合期成会評議員や活版工組工会頭に就任し、

ビア国産化・1900 = 48歳：

植村正久の一番教会から除名される。廃娼同盟を組織する一方、時の逓信大臣・星亨を攻撃するなどして、ジャーナリストとしての名声も一層高まる。

日露戦争終・1905 = 53歳：

以降、普選運動にも参加して、選挙権の拡大を主張して行くが、

満鉄発足・1906 = 54歳：

時流の変化から新聞経営が困難となり、

伊藤博文暗殺1909 = 57歳：

{横浜毎日新聞社}を引退。

大逆事件判決1911 = 59歳：

廓清会を組織し廃娼運動を精力的に進めた。

明治天皇没・1912 = 60歳：

大正政変・1913 = 61歳：

桂太郎の立憲同志会創立に参加。

第一次大戦始1914 = 62歳：

議会では雄弁をもってきこえ、シーメンス事件での山本権兵衛内閣弾劾演説は有名である。

21ヶ条要求・1915 = 63歳：

*衆議院議長に就任、

ロシア革命・1917 = 65歳：

退任後も、普通選挙の実現に尽力し、

原敬首相暗殺1921 = 69歳：

憲政党の党議に反して軍備制限決議案に賛成するなどしたが、

関東大震災・1923 = 71歳：

没した。